

# 【第8回】 知ることで未来が見える 戦争の加害パネル展

## 特集展示●関東大震災時朝鮮人虐殺

1923年9月1日の関東大震災のその日から、「朝鮮人が襲ってくる・放火や井戸に毒を投げ込んでいる」等の流言が伝わり始めた。朝鮮人達は軍隊・警察・自警団により虐殺された。横浜でも大勢の朝鮮人が虐殺され、その名前も遺体の行方も不明だ。そして、官憲により隠蔽されたまま今年で100年がたつ。

(ブレ企画) 7月2日(日) 14時30分～17時30分

映画上映会

「隠された爪跡」(55分・呉充功監督)

「払い下げられた朝鮮人」(53分・呉充功監督)

会場●かながわ県民センター2階ホール

入場料 800円 ※大学生、障がいのある方は500円、18歳未満無料

(会期中企画) 8月26日(土) 17時30分～19時30分

慎蒼宇さん講演会 (法政大学教授)

「関東大震災100年—朝鮮人虐殺と官民の植民地戦争経験」

会場●かながわ県民センター2階ホール ●資料代500円

その他の展示パネル

戦争加害の歴史の概要 万人坑

毒ガス兵器 731部隊 南京大虐殺

重慶無差別爆撃 マレー侵略

「満洲」に集団移住させられた朝鮮人

沖縄戦と棄民化された人々

朝鮮人・中国人強制連行

日本軍「慰安婦」

ドイツと日本の戦後処理の違い

百年前、横浜の街で  
虐殺事件があった。  
そのことを忘れない。

入場無料



8月26日(土)～9月3日(日)  
10:00～19:00

かながわ県民センター  
(横浜駅西口5分) 1階展示室

主催：記憶の継承を進める神奈川の会  
電話●090-7405-4276 090-8721-3222 メール●hiromatu914@yahoo.co.jp

※新型コロナ感染の状況に応じて、  
企画を変更する可能性があります。  
あらかじめご了承ください。

## 万人坑

日露戦争・満州事変で満洲に権益を得た日本は、満洲を日本の生命線とみなし、多数の軍事施設建設や鉱工業開発を行った。これに必要な大量の労働者を、満洲内・華北他から強制連行等で集めた。しかし過少食・過労働・不衛生・暴行により大量の人々を死なせ、正常に埋葬せず、原野・谷間に遺棄した。これを万人坑と呼ぶ。

## 毒ガス兵器

日中戦争期、中国の徐州、武漢などの中国各地で、日本軍は、国際法違反の毒ガス戦を行い、中国人民の多大な被害を与えた。また敗戦直前に、残った毒ガス弾を中国に遺棄したために、戦後、それによる毒ガス被害が多発している。1997年化学兵器禁止条約発効後、日本は、その処理にあっている。

## 南京大虐殺

南京大虐殺事件はあったのか、なかったのか。一度に何十万人も殺されたのか、さまざまな事件の集積か。なぜ殺戮・掠奪・放火・性的暴行が発生したのか、発生の背景は。悪魔でも鬼でもなく、兵役に就く前は「普通の暮らし」をしていた日本人が、なぜそのような行為に至ったのか。Q&A形式で展示します。

## マレー侵略

アジア太平洋戦争は、マレーシア・コタバルから始まった。真珠湾より約1時間早く。「島の人口を半分にしようと思っている」(辻政信参謀)の言葉通り。住民大量虐殺(「シンガポール大検証」など)や、5000万海峡ドルの強奪(奉納金)、岡9420部隊(731部隊支隊)設置など暴虐の限りを尽くした。

## 日本軍「慰安婦」

満州事変、日中全面戦争、アジア太平洋戦争、15年にわたる戦争の中で、日本軍は朝鮮半島などの植民地や占領した中国・東南アジアの女性を強制的に日本兵士と性行為をさせる「慰安所」を作りました。これまでの調査・研究から明らかとなった、日本軍「慰安婦」制度の仕組みと実態を展示します。

## ドイツと日本の戦後処理の違い

日本は過去何回も謝罪していると言う主張がある。これは被害者から見て納得できているのだろうか? 過去の植民地主義について、何処の国も謝罪・補償をしていないとの主張もある。これは本当だろうか? 他の国、特にドイツが日本と比較されることが多いが、どう違うのだろうか? これらの問題を検討する。

## 「満洲」に集団移住させられた朝鮮人

「満洲」に渡った朝鮮人移民について、膨大な数の直接体験者の聞き取りをし、写真を撮ってきた李光平(リグアンピョン/中国吉林省延边朝鮮族自治州の歴史研究家・写真撮影家)さんの表現には、移民たちの生活、葛藤、抗いなどが生々しく記録されています。

## 731部隊

日本陸軍は中国東北地方の平房に731部隊を設置し、人体実験・細菌散布実験を繰り返して細菌兵器を開発した。そして寧波や常德等の中国の都市で国際法違反の細菌戦を行い、中国人民に多大な被害を与えた。戦後、731部隊員は米国に実験データを渡し、全員が戦犯免責になり、医学界に復帰した。

## 重慶無差別爆撃

日中戦争期の1938年~44年にかけて、当時中国の臨時首都であった四川省重慶市に対し日本の陸海軍航空隊が、抗戦継続意志の破壊を目指して行った本格的な戦略爆撃。特に1939年~41年の作戦では爆撃機の集中・大量使用と焼夷弾攻撃を特徴とし、都市無差別爆撃の戦史に先鞭をつけた。

## 沖縄戦と棄民化された人々の記憶

琉球処分という名の植民地化から始まり、戦時中は「国体護持」「本土決戦」「捨て石」にされた沖縄戦の実相を「沖縄戦新聞」で振り返り、戦後は「天皇メッセージ」で米軍政下におかれ、「本土復帰」後も日米の「要石」にされている実態、棄民化されても「自己決定権」を求め続ける今を写真・パネルで展示します。

## 朝鮮人・中国人強制連行

36年に及ぶ植民地政策のもと、朝鮮人を安価な労働力として戦時下で強制連行し、また中国人も強制的に連行し、鉱業、荷役業、国防土木建設業など徴用という名の強制労働で酷使しました。その過酷な労働現場の実態をパネル展示します。

会場内にてミニ講演(無料) ●各日14時~16時

山本すみ子さん: 8月27日(日)

「虐殺100年 隠蔽された横浜の朝鮮人虐殺」

上田紘治さん: 8月29日(火)

「広島への原爆投下とわたし」

根津公子さん: 9月2日(土)

「中学生が作成した紙芝居『731部隊』によせて」

私たち人類は過去を見つめることを通して未来を創ってきました。日本が行った戦争で一体何が行われたのかを知り、継承していくことは大変重要なことと考えております。触れたくない過去とお考えの方もいるかと思いますが、避けて通ることは出来ません。そこで、2016年に、南京大虐殺・日本軍「慰安婦」・731部隊・毒ガス戦・沖縄戦での「戦争の加害」に関するパネル展示を、その後、展示項目を加えて、毎年行ってきました。今年も継続することの大切さから、第8回パネル展を実施いたします。

# 民族排外主義と差別こそが、戦争への道。